

平成26年度

千葉市健康づくり推進協議会
第1回8020運動推進部会
議 事 録

保健福祉局健康部健康支援課

平成26年度千葉市健康づくり推進協議会第1回8020運動推進部会議事録

1 会議の名称

平成26年度千葉市健康づくり推進協議会第1回8020運動推進部会

2 開催日時

平成26年8月29日（金） 午後7時から午後8時30分

3 開催場所

千葉市美浜区幸町1-3-9
千葉市総合保健医療センター 4階 会議室

4 出席者

(1) 委員

金子充人委員（部会長）、関根務委員（副部会長）、木屋和彦委員、杉崎幸子委員、岡部明子委員、石川進一委員、田中裕子委員、小山恒明委員、藏屋勝敏委員、鶴澤禮子委員（委員13名中10名出席）

※欠席委員 高橋秀夫委員、井上孝委員、北山洋一委員

(2) 事務局

加瀬秀行健康部部長、大塚正毅健康部技監、角田君枝健康支援課課長、阿部裕子健康支援課担当課長、植草栄司こども企画課課長、田中悦子保育運営課担当課長補佐、渡辺茂徳中央保健福祉センター健康課課長、飯田正宏保健体育課課長補佐、鈴木隆子健康支援課課長補佐

5 議題

- (1) 千葉市の歯科保健対策の現状及び平成25年度歯科保健事業実績について
- (2) 関係機関等及び千葉市の歯科保健対策の取組みについて
- (3) その他

6 議事の概要

冒頭、事務局から、千葉市健康づくり推進協議会設置条例第7条第7項の規定により、委員の半数以上の出席があるため、会議が成立している旨の説明があった。

- (1) 千葉市の歯科保健対策の現状及び平成25年度歯科保健事業実績について
事務局から千葉市の平成25年度の歯科保健事業実績の説明を行った。
- (2) 関係機関等及び千葉市の歯科保健対策の取組みについて
関係機関と事務局から歯科保健対策の取組みについて報告があった。
- (3) その他
歯科医師会より集団フッ化物洗口推進委員会設置について提案があった。
事務局から今後の審議日程について説明を行った。

7 会議経過

(1) 千葉市の歯科保健対策の現状及び平成25年度歯科保健事業実績について

事務局から、資料1-1「千葉市の歯科保健対策の現状(健診等の実績)」により、平成25年度の実績について説明を行った。また、資料1-2「千葉市民の歯・口腔等の状況」により、幼児期・学齢期の歯科保健の状況（う蝕有病者率）、学齢期の歯肉の要観察・要精検者の割合、3歳児のフッ化物応用の状況（歯面塗布者率の年次推移・歯みがき剤の使用率）、公立保育所・小学校・中学校における昼食後の歯みがき等の状況、政令指定都市の12歳児の一人平均う歯本数と3歳児健診のう蝕有病者率とフッ化物洗口実施状況、妊産婦歯科健診の実施状況（受診率の年次推移、受診結果）、歯周疾患検診の実施状況（受診率の年次推移、歯間部清掃用具の使用状況）、全国集団フッ化物洗口実態調査（実施施設数及び

実施人数の推移) についての説明を行った。

【質疑応答等発言要旨】

<委員>

千葉市では3歳児のう蝕有病者率、12歳児の一人平均う蝕本数は政令指定都市20市中の順位は15位であると説明をいただいた。3歳児健診後の4、5歳児のむし歯は増加していて、そこでむし歯を持っている子ども達が12歳での永久歯にむし歯を持っていることにつながる。また、むし歯を持っている子は歯肉炎の所見があることにつながっている。改善は難しいと考えるが、この流れを止めるためにどのような調査をし、今後どのように取り組む予定なのか教えてほしい。

<事務局>

委員さんの言うとおりであります。乳幼児健診の中でフッ化物応用の勧めを行い、歯みがきだけではむし歯予防は不十分ではあると認識してはいるが、歯みがきも大切なので、歯のみがき方も伝えていきたい。また、保育所や幼稚園等で積極的に歯みがきをして下さっているので、協力していきたい。教育委員会に歯科衛生士が在籍しており、小学校へ巡回刷牙指導をしているので更に強化していきたい。今後は、むし歯予防施策の十分な結果が得られていない状況の中で、フッ化物洗口の実施を前向きに対応していきたい。

<委員>

私は歯科医院で仕事しているが、春の歯科健診後に受診に結びつかないケースがあると感じる。むし歯はないが歯肉炎があるので歯みがきの指導を受けて下さいという要受診の児童・生徒が早期に受診するように案内を出してほしい。

<部会長>

政令市で比較するとこのような結果になってしまうのは、人口規模が大きい政令市は徹底したフッ化物洗口ができないのでこういう状況になっているのだと思う。しかし、千葉市の12歳児の一人平均う蝕本数は1.12本であり、岡山市の0.57本の倍以上であることは問題である。洗口を徹底的にできる小さい市町村では、10人の1人にむし歯が1本あるかないかというように効果が出ているので、そんな例も資料として出してほしい。

<委員>

私の認識不足なのかもしれないが、フッ化物洗口は学校等で奨励されているのか。前回の部会では教育委員会は勧めることはしていないという発言があったと思う。他の委員からもフッ化物洗口は良いとも悪いとも言えないとの発言があったと記憶している。部会后、学校等でも推進するように考えが変わったのか。

<事務局>

フッ化物洗口の効果は教育委員会でも十分認識している。それに基づいて啓発事業、口腔衛生事業でリーフレットを配布し、フッ化物応用はむし歯に効果があると推奨している。ただ学校では集団フッ化物洗口もフッ化物歯面塗布も実施していない。

<委員>

学校だけでなく一般にもフッ化物洗口は推奨してもいいのか。

<部会長>

新しく生えてくる永久歯のむし歯予防として効果が高いものだ。大人がだめというわけではないが、ほとんどの歯みがき剤にフッ化物が配合されているので、大人は歯みがき剤の使用でよい。

<委員>

私どもはボランティア活動で勉強会をしている。そこで、口腔ケアは大切なので、口腔ケアがいかに歯周病や生活習慣病予防に効果があるか等を一生懸命広めている。8020運動を知らない人は少なくなっている。歯科に関する意識が変わってきているのを感じている。

<部会長>

大人は、むし歯でなく、歯周病で歯を失くす人が増加するので口腔ケアはきちんと実施してほしい。それでも抜けてしまったら噛める義歯をいれてほしい。

(2) 関係機関等及び千葉市の歯科保健対策の取組みについて

関係機関・団体及び事務局から、資料2「千葉市民の歯・口腔等の状況」により、千葉市の3つの課題、むし歯予防、歯周病予防、口腔機能低下予防毎に、それぞれの取組みの報告があった。

【取組みの報告の要旨】

<歯科医師会>

むし歯予防の取組みでは、フッ化物応用の推進としてフッ化物応用協力医の一覧をホームページで情報提供し、本会員向けにフッ化物応用勉強会の開催、ヘルシーカムカム開催周知チラシ・ポスター、メディア（NHK-FM ラジオ）を利用した知識の普及啓発を実施した。

歯周疾患検診の受診率が低いとの課題については、歯周疾患検診受診勧奨啓発ポスターを作成し会員の診療室だけでなく他関係機関等にも配布し掲示していただいている。また、ちば歯科健康塾（市民公開講座）等講演会での歯周病予防の知識の普及啓発、本会員向けに「歯周病と糖尿病の関係について」の講演会を開催した。

口腔機能向上については、ちば歯科健康塾（市民公開講座）等講演会にて、口腔体操の普及啓発に努めている。

<歯科衛生士会>

むし歯予防に関しては、ヘルシーカムカム「ブラッシング相談コーナー」で、子ども達にブラッシング指導を行っている。また、千葉県からの委託を受けて、8020フッ化物応用事業として県内の障がい者施設でフッ化物洗口の情報提供をしている。作成したリーフレットは千葉県の健康づくり支援課ホームページからダウンロードできるようになっているので活用してほしい。親と子のよい歯のコンクールにおいては、生活習慣やおやつ、歯みがき指導の話をしている。

歯周病予防の取組みとしては、ヘルシーカムカムでの相談やフッ化物洗口情報を提供している障がい者施設の利用者や職員へ話をしている。

口腔機能向上についての取組みは、食育のつどい、健康づくり大会等のイベントや県内の生涯大学校において「スマイルアップちば体操」による健口体操を普及啓発している。千葉県産の食材を活用した健康かみかみ弁当コンクール「かむ子・のびる子・元気な子」料理コンクールの開催も今年で21回目となり、小学生から大人まで応募は多い。

<幼稚園協会>

各園で昼食後に歯みがきはしているが、フッ化物洗口の実施はすすんでいない。平成26年2月26日きぼ一で千葉市歯科医師会・歯科衛生士会・健康支援課の協力を得て職員向けに講演会を実施し、78人の参加があった。フッ化物洗口によるむし歯予防の講演、フッ化物洗口体験、千葉市から歯の健康についての話等の受講後、フッ化物洗口実施を希望する加盟園が、今年9月からフッ化物洗口を始めることとなった。実際に子ども達と日常に

接している先生方がフッ化物洗口を体験することが実施につながるようである。今年度も11月26日にフッ化物洗口の講演会を計画している。毎日子ども達と触れ合っている先生方に参加していただけるよう企画している。行政と連携を取りながら、千葉市の子ども達のむし歯が少しでも減るように協会を挙げてフッ化物による8020運動に取り組んでいこうと考えている。

<部会長>

幼稚園協会の取り組みをうれしく思っている。若葉区の若松台幼稚園で9月からフッ化物洗口を実施するとの報告であったが、実施に至るまでの経緯等の報告を事務局からしてほしい。

<事務局>

若松台幼稚園での経緯について報告させていただく。

フッ化物洗口実施の意向を伺い、千葉県のフッ化物洗口実施マニュアルを基に進めた。4月に園長から保護者向けにフッ化物洗口の概要説明及びお便り等で洗口について周知をした。園児には水で洗口の練習をさせ、6月には1分間の洗口が出来るようになっていた。また、6月には学年別に父兄参観日があり、保護者に対してフッ化物の概要と特性、フッ化物洗口実施方法の説明を行い、洗口の体験をしていただいた。300名弱の保護者がいたが、反対意見はなく、「どこで製剤が入手できるのか。」「家でもやりたい」等の声を聞くことで、保護者の関心の高さが伺えた。その後、園長・園歯科医とともに製剤や必要器材の入手方法など洗口実施に向けた具体的な準備を行い、保護者に希望調査を行った。洗口が出来るようになった年長児から9月に洗口を開始し、年中・年少児へも拡大して実施していく予定である。また、若松台幼稚園の他にいくつか集団フッ化物洗口実施を希望する施設があるので、協力させていただきたい。

<栄養士会>

栄養士会は直接的に歯に係ることはできないが、口腔機能である咀嚼の大切さをヘルシーカムカムや食育のつどい等のイベント時にリーフレットやパネル展示で伝えている。また、食べることの大切さをアピールする場として食育健康料理教室を10月の千葉市健康づくり週間と12月の冬休み直前に年2回開催している。親子で参加していただき、県内の野菜を使い、よく噛んで食べる料理を調理してもらい、試食終了後リーフレットを利用し食べること、噛むことの大切さを啓発している。また、保育所の栄養士たちが手作りの指導媒体で歯についての話をしている。咀嚼についての直接的な活動はないが、これからもよく噛んで食べるためにどういう食材を使ったらよいか普及啓発していきたい。

<保育運営課>

千葉市の保育所60か所のうち乳児を預かる保育施設に57名の看護師が配置されている。看護師研修等で昨年から公衆衛生上のテーマをもって勉強している。そこで学んだことを保護者向けにリーフレットや保健だよりを作成し伝えている。同じ情報が届くように、全市で今年度は歯科だよりの発行を10月に「むし歯にどうしてなるの」12月に「むし歯予防について」を作成し、フッ化物の効果を普及啓発する予定である。地域の親子を対象とした育児講座等でも作成したリーフレットを配付している。他に地域活動の中で育児講座を開催しており、2か所の保育所でむし歯や歯みがきの講座を開催し22名の参加があった。また、昼食後の歯みがきに携わる保育士にも看護師が作成した「保育者用年齢別歯みがき指導表」を利用し、歯みがきのポイントを理解させるように努めている。

<保育体育課>

先に、委員から健診結果のお知らせ方法の質問があったので答える。定期健康診断歯科健診実施後すぐに、結果を各家庭におたよりとして知らせている。また、治療が必要な児童生徒には治療勧奨している。12歳児の一人当たりのう歯本数は、昨年度は0.97本とな

った。取り組みとしては、1学級1単位で歯科衛生士が直接学校に出向き口腔衛生指導をしている。児童・生徒、保護者、教職員が共に児童・生徒の個々にあったみがき方を理解し、歯科疾患の予防・改善を図る事で健康についても意識を高めることを目標にしている。指導内容は児童・生徒の発達段階に合わせて工夫している。また、学習シートにフッ化物洗口についての情報を保護者の理解を求めるといことで掲載している。千葉市のほとんどの小中学校が口腔衛生指導を実施している状況である。

資料2に戻り、歯と口の健康づくり啓発事業について口腔保健指導を実施している。実施対象は市内の小中学校の児童生徒としており、毎年おおむね2~3中学校区で実施。千葉市歯科医師会歯科医師が直接、教室に出向き指導をしていただいている。小学1~4年生にはむし歯になりやすいかどうかを判定するRDテスト、高学年・中学生には歯肉の炎症を見るサリバスターテストを行っている。また、小学校では児童の歯垢を採取して位相差顕微鏡を用い、口腔内の細菌を大型テレビで見る、中学校ではパソコンでパワーポイントを使用する授業展開をしている。

学校歯科保健活動状況調査として、毎年度末に各学校に歯科保健の活動を報告してもらっている。H25年度は新たに給食後のみがき時の歯みがき剤使用の有無の調査を行い、使用率が低い結果を得た。今後も歯みがき剤にはフッ化物が含まれているので、歯みがき剤を使用した指導をしていく。

保健指導主任研修会では、歯科衛生士から歯みがき剤や歯ブラシの選び方、むし歯予防に効果的なフッ化物配合歯みがき剤、フッ化物の種類などのむし歯予防の基本の歯科保健情報を提供し、学校現場へ周知をしている。

最後に資料2に掲載はないが、子どもの健康を保つ事業として「歯医者さんの喫煙防止教室」を実施している。その際もパワーポイントを使用した授業展開をしていただいている。

<健康支援課>

ヘルシーカムカムイベントにおいて「フッ化物体験コーナー」を今回初めて行った。参加者も多く市民の関心が高いことを感じた。

<委員>

前回の部会后、歯周疾患検診の受診を促すPRポスターの医師会会員への配付・掲示に関して歯科医師会と本会の理事で話し合いをした。医師会としても歯周病について会員に啓発したく、協力をした。

<委員>

昼食後の歯みがき時にフッ化物配合歯みがき剤を使用するのが良いということであったが、各学校に周知徹底してほしい。歯みがき剤を使用すると、うがいをしないといけないが、学校によっては手洗い場が非常に狭かったり、40人に対して水道が2つしかなかったりと環境が整っていない。時間差をつける等の工夫もできるが、一人一人の歯みがきへの指導が徹底されていないので、その改善を図る必要がある。

<委員>

中学校においては昼食後、すぐ遊びたい生徒が多く、また手洗い場が少ないので歯みがきが出来ていない状況である。本校では一人当たりのむし歯本数は0.68本と少ない。子どもの頃からの歯みがき習慣、意識が影響していると養護教諭は感じている。学校歯科医からは、むし歯はないが歯並びが心配な生徒が多いのは、食事の影響が大きいのではないかと。歯ごたえのないものを食べるため顎が発達していない。米国では矯正が当たり前だが日本ではそうではないのではないかと等の指摘を受けた。保健体育課の歯科衛生士によるテスターを使用しての口腔衛生指導は指導効果が高いので続けていただきたい。

(3) その他

【発言要旨】

<委員>

千葉市歯科医師会で（仮称）集団フッ化物洗口推進検討委員会設置し、集団フッ化物洗口の推進に向けて取り組むことになった。検討委員会では、千葉市行政、歯科医師会等がフッ化物洗口の実施に向けて、同じ考え、方向性をもって進めていけるよう検討していきたいので、行政側も是非協力してほしい。

<委員>

千葉市の訪問歯科診療事業は普及しているのか。

<事務局>

今後、在宅ケア、在宅医療の必要性が高まってくる。千葉市訪問歯科診療では難易度が高い方を診る頻度が高く、大切な事業である。

<部会長>

医師会にも協力してもらおう等して、パンフレットで案内周知をしている。

<事務局>

委員より提案いただきました検討委員会に私どもも協力したい。
次回の部会は、次年度の8月頃に予定している。

以上のおおりの議事を進め、午後8時30分に閉会した。

以上

平成26年8月29日（金）開催の平成26年度千葉市健康づくり推進協議会
第1回8020運動推進部会の議事録として承認し、署名する。

千葉市健康づくり推進協議会 8020運動推進部会長

問い合わせ先 保健福祉局健康部健康支援課
電話 043-238-9926
F A X 043-238-9946
電子メール shien.HWH@city.chiba.lg.jp